

千鳥ヶ淵戦歿者墓苑拝礼所
常陸宮殿下同妃殿下のご拝礼
原版厚生省より拝借 (昭和49年5月11日)

マーシャル方面遺族会
(旧クエゼリン方面戦歿者遺族会)
郵便番号 154
世田谷区野沢3-11-3
電話 東京 (421) 3614
振替口座東京 93487番
編集兼発行人 浮田信家

千鳥ヶ淵墓苑拝礼式に参列して

屋 間 楽 平

快晴に恵まれた五月十一日は、大内山を渡りくる風もひとしほと薫り、こよなく爽やかな日和でございました。折しも、新緑に映える墓苑は、お濠の水面に壮嚴な姿をうまし、空の碧さと相俟って、本日の拝礼式を歓迎しておられる風情でございます。

午前十一時、常陸宮同妃両殿下がご着席になられ、田中総理、齋藤厚相他、関係閣僚、国会議員をはじめ、多数の来賓各位、併せて全国各都道府県の遺族の方々多数参列の裡に敢爾且つ盛大な拝礼式が執り行われました。今回は厚生省の中部太平洋方面戦歿者遺骨収集集団によって、過去三十年もの永きに亘って、太平洋の孤島の潮騒いに、人知れず眠っておられた千九百七十一柱のみ魂が、祖国に帰還せられしことを期して、明き、直き、武きみ魂安かれと願う心から、拝礼式の挙行となりましたのでございます。

皆様も既にご存じの通り、過般の遺骨収集集団には、浮田本会会長も参加され、その模様は、既刊の環礁及び本年総会におけるご報告によってご承知のことと存じます。

猶本会関係のご遺骨は次の通りと承りましたので御報らせします。
アイリングラブラブ・9、エボン・18、エビゼ・1、ウオッセ・105、ウジャエ・5、ウートロック・29、クサイ・3、ロングラップ・1マロエラップ・139、ミレ・228、ヤルト・10以上。

想えば、終戦後三十年に垂んとする今も猶、幾方柱かの英霊が、北辺の地、南海の果に、風雪に打たれ、波浪に洗われて、息を偲ぶとき、生き永らえた私共はその責任の重さに胸も痛む次第でございます。そして今回の拝礼式に際し、納骨された英霊は、その一部に過ぎませんが、肉親である私共には、矢張り大きな安らぎであり喜びであります。

幸いにして、私共マーシャル方面遺族会の会員は、浮田会長、佐藤副会長さんらの、卓越した指導力と、献身的なご奉仕により、他に類例をみない程充実した行事計画が、着実に実施されております。即ち、毎年挙行される慰霊祭、慰霊碑の建立、副碑の奉納等々がこれ、私共遺族の心の拠り所を与えて下さっております。

私は、このたびの拝礼式に陪席して、心の奥底から、沁みじみと、会員であった幸せを噛みしめていた次第でございます。

そして今、心静かに祈りますことは、未だ還らざる多くの英霊が、一日も早く故国に帰還されて郷里の土や、水や、森に接して、永久に安らかな眠りにつかれることを只管願う許りでございます。終りに臨み、本会会員皆様のご清祥とご多幸を祈念申し上げ、この稿を終らせていただきます。

目 次

- 千鳥ヶ淵墓苑拝礼式に参列して.....屋間 楽平(1)
- クエゼリン島墓参記.....浮田 信家(2)
- ルオット島墓参記.....浮田 信家(3)
- 村上義一前会長を悼む.....浮田 信家(3)
- 会長就任に当って.....浮田 信家(3)
- 現地訪問希望についてお尋ね.....事務 局(3)
- ―叶えられるなら墓参も―
- マーシャル戦記―その五―.....事務 局(3)
- ―マキン守備隊の玉碎―.....木ノ下 甫(4)
- 木ノ下甫氏のマーシャル戦記を.....木ノ下 甫(4)
- 読んで.....長崎 井上 義夫(4)
- 中部太平洋戦歿者遺骨収集政府.....中部太平洋戦歿者遺骨収集政府(5)
- 派遣団随行記.....浮田 信家(5)
- クエゼリンのお墓は島の人々で.....いつも綺麗にお祀りしています(5)
-クエゼリン島の一住民(6)
- 玉碎直前の四十日・運命のプ.....玉碎直前の四十日・運命のプ(6)
- ラウン派遣隊.....高田源次郎(6)
- 愛児を祖国に捧げた慈母に贈る.....船長 佐藤 孫七(8)
-船長 佐藤 孫七(8)
- 「中部太平洋戦歿者の碑竣工.....並びに追悼式」に参列して.....藤崎 雅彦(9)
- 東京都遺族代表.....藤崎 雅彦(9)
- 会員だより.....秋田 康雄(9)
-福岡 西原 康雄(9)
-富山 山 きの(10)
-富山 池田 淑子(10)
-愛媛 松木ミチル(10)
-熊本 竹浜 健蔵(10)
- 昭和48年度決算報告.....熊本 竹浜 健蔵(10)
- 昭和49年度予算.....熊本 竹浜 健蔵(11)
- 会計担当兼任幹事から.....熊本 竹浜 健蔵(11)
- 井上 賀雄(11)
- 本年2月6日行事報告・事務局.....井上 賀雄(11)
- 副碑奉納式に参列・長谷川田鶴.....副碑奉納式に参列・長谷川田鶴(12)
- 直会旅行の想い出・高橋 たつ.....直会旅行の想い出・高橋 たつ(12)
- 寄付者芳名.....高橋 たつ(12)
- 事務局だより.....高橋 たつ(12)

村上義一前会長を悼む

浮 田 信 家

旧臘中部太平洋遺骨収集の帰還報告その他年末会務報告のため会長にお目にかかりたくて、お宅にご都合お尋のころ風邪気味で、国立第一病院に入院したが、本人は機嫌よく、年末年始を過したら退院すると思うのでお見舞や他にお知らせするなどの心配はしないよう固くご辞退がありました。2月6日の慰霊祭には靖国神社御参列のご通知はいただいており、1月10日には寒中お見舞もいただいたので安心しておりました。

その中私は急用が起り一泊の手定で21日大阪に向いましたが夕方新大阪につくなりラジオで、村上会長が昨20日午後8時国立東京第一病院で永眠されたこと聞き、真偽を怪しむ程驚きました。

思えば昭和41年2月、副会長に御就任以来、国として遺骨収集実



施を厚生大臣に敬願、これの期待薄から知事会自体で実施のため全国都道府県知事会への要請、これに関連して敬愛の候靖国神社での役員会、度重なる交通公社役員室での御相談、時には本部事務所まで御足労下さったの熱心なご温情が次々に思い出され、今後が案ぜられて一晩うとうとして眠れませんでした。

帰京早々お悔みに参上しました。既に温顔に接する術もなく、焼香しお訣れました。

昭和44年4月会長就任をお願に上ったときは既に8社22団の役員を兼務されながら、快諾されたことはご次男信一様の霊に繋がるのか、本会に対するご関心の深さも感ぜられて心から喜しく思いました。以来5年のご指導によって、本会今日の堅実な運営の基礎を固めて下さったばかりでした。

痛哭の極、ご生前のご薫陶に対し厚く御礼申し上げたいと存じます。ご葬儀は1月28日東京築地本願寺において日本交通公社社葬をもって営まれました。御生前のご功績を偲ばせられた盛儀でした。

村上前会長のご永眠をお知らせし、会員の皆様と、心からご冥福をお祈りしたいと存じます。

会長就任に当って

浮 田 信 家

村上前会長が会長にご就任下さったときは、既に80才を越されたご高齢ではありましたが、お元気であったので、つい将来のことなど考えず私は副会長として、会長にお任せし、ご指示に従って、会務の遂行に明け暮れました。

昨年暮ご入院の際も、年末年始だけのご静養で、年が明けると、全く気にしませんでした。そんな私でしたから、1月21日会長の訃を耳にしたとき、本当に途方に暮れました。

五年前私が副会長を仰せつかる

現地訪問希望についてお尋ね

― 叶えられるなら墓参も ―

事 務 局

とき、私にはその資格のないことを充分自覚しておりますので、固くお断りしたのですが、村上会長から強く申されましたので、遂お受けしてしまいました。今回も会

長のご他界に関連し、万一会長にでも選任されたら、どうしたらよいか、心配でなりませんでした。

元来私は責任のある「長」という字がつく立場になったことはありません。かりにも「長」がつく以上全責任を負って、すべてを処すべき立場と思いますが、これに対する私の不資格さは、既に10年も前から皆様に曝露しております。それを終戦後既に30年、今更戦後であるまいというのが一般的ですし当然かも知れませんが、一方政府は世論に呼応し、今巨額の予算を投じ、民間協力者まで加えて下さって万策を樹て遺骨収集を行って下さりこの先何年続けて下さるかはかりしれません。私自身

身会員一同の肉親の骨を求めて二回も現地を訪れ、この作業の困難さを体験し永久に故国の土と化し得ないお骨の如何に多いかを、断腸の思いで承知しております。

その上私も多少戦地の勤めもいたし身辺で多くの先輩や戦友と最期のお訣れをしたのですが、遂に死所を得ず、生きながらえてしまいました。

過去をふりかえり、副会長という立場を不手際ながらがらけがした以上又総会の席上選任されたに余る光榮として、奉仕させていただきますことに心を決しました。

今後は村上前会長の御趣旨を体し、会則の示すところに従い専ら慰霊・相互扶助・親睦を心得り、現地慰霊碑の管理、許可を得て会員の墓参が叶えられるよう奮馬に鞭打ますが、何分能力のない私故に従来にも増してご鞭撻をいただき、本会の立派な成長を願いたいと存じます。

以内だと往復一名六五、七〇〇円程度です。グラムからクエゼリン、マジュロに寄ってハワイにゆく便があります。グラム発週火、木、土の三回です。この帰りの便はマジュロ発月、水、金の三回です。グラム、マジュロ間航空運賃は片道六六、三四〇円程度。往復は倍額です。

グラムとマジュロの宿泊。グラムは五千円、マジュロは四千円程度。食費は別です。

この様な行動に対し米国側のビザ(査証)が得られるかどうか、(9頁へ続く)

マージナル諸島の場合

船便希望者はないと思ひ、航空便を調べてみました。それだとまづ東京空港からグラムに行きま

だが良い機会があったら知らせて欲しいという註文を時々受けま

す。然し只待っていても、機会はつかめないと思うので、まづ次のような条件で現地行を希望する方の有無を調べ、何名かあったら、計画を樹てるといふことにしたい

マーシャル戦記 — その五 —

＝ マキン守備隊の玉砕 ＝

木ノ下 甫

2月8日（昭和17年）

新司令官阿部孝壮海軍少将が着任された。2月24日には、空軍機動部隊が早朝4時を中心にウエーキ島を空襲した。大巡一、駆逐艦2は地上を砲撃しにきたが、我砲台の反撃で、1隻の艦尾に命中弾を与えて撃退した。

約50機の空爆で兵舎一棟炎上、戦死3名、第4、第7監視艇が尊い犠牲となった。我中攻隊は出撃おくれ、空しく空母を逸した。

5月に入って、7日から珊瑚海に彼我機動部隊の決戦があり、我小型空母祥鳳を失ったが、敵大型空母レキントンを撃沈した。

南海の風雲はいよいよ急を告げた。6月5日のミッドウエー攻略は、成否如何を傍受していたが、我空母4隻を失い、大敗に終わった。これで攻守廻を変えて、敵の攻勢は必至となった。果して8月7日、敵はツラギを強襲しガダルカナルに上陸して来た。8日夜に我方8艦隊三川長官麾下のなぐり込みで、敵の艦隊に大損害を与えはしたが、惜しいことに輸送船団を攻撃しなかったため、ツラギ、ガダルカナルの基地は占領され、所在部隊は玉砕してしまった。

8月17日
日記

「早朝、マキンに敵上陸の報あり。足元に火のつきたる心地なり。直ちに増援陸戦隊を急派に決す。軍艦常磐艦長を指揮官として、当地の特陸を乗せて出港の事とす。敵の駆逐艦2隻又は潜水艦2隻より夜間上陸せしもの如し。寡兵奮戦せしも、〇九〇五「全員従容として戦死す」の電を最後に連絡絶ゆ」

当時、マキン島には、ヤルト島島の第62警備隊から派遣された金光兵曹長の指揮する一ヶ小隊の守備隊が、大艇基地の基地員や通信員を併せて、約70名で守備していた。大艇は数機いて、南方海面の哨戒に当たっていたので、敵艦艇の近接は偵知される筈であった。敵はやはり潜水艦2隻に二百余名の海兵隊員を乗せて、夜間奇襲上陸をしたのであった。3倍の敵である。私は奪還作戦を現地で指導することにして、すぐヤルトに飛んだ。ここで砲艦大同丸に一ヶ中隊を乗せて、共に乗りこんで19日に出港マキンに向った。更に急速増援のため大艇2機に重武装の一ヶ小隊を乗せて、20日にマキンに着急派した。この小隊はマキンに着水して上陸したが、数名の我方の生残りの外は、敵を見なかった。既に退却したものと思われた。21日、大同丸は、マキン島に着いた。棧橋から陸戦隊を揚陸し、直

ちに島内の掃蕩にかかった。中央に行くと、金光兵曹長を先頭に、一線に散った我兵が、突撃の姿勢のまま敵に向って、俯伏して戦死していた。これに対する百米ほど先の敵散兵線の前には、数名の米兵が倒れていたが、これは揃って頭を北にして、つまり日本兵の反対側に仰むけになって死んでいるのである。

最後まで敵陣に肉迫突入しようとする我兵の意気込みが、逃げ腰の米兵と、全く対象的であった。敵兵の屍体は我散兵線の後方にもあって、我方は前後に敵を受けたものと思われた。

棧橋を上ったところで、私は在島の邦人から、一通の英文の紙切れを渡された。それは米軍大尉から、日本軍指揮官に渡すよう頼まれたものであるという。

見るとそれは降伏文書であった。ラルフ・H・コイテ大尉と署名してあった。今次大戦中恐らく唯一の降伏文書であろう。

後で島内掃蕩で得た9名の捕虜や、生残った我隊員の話を経合すると、2隻の潜水艦からゴムボートで上陸した敵海兵隊2ヶ中隊は大部分は一ヶ所に上陸して、我兵と対陣したが、その一部分が離れてしまつて、我方の後方に上陸、激戦中、我方の突撃で主力が全滅した後も、射撃をつづけたため、その後は米軍同志の同志打ちとなつたわけである。

そこで米海兵隊指揮官カールソン中佐は、日本軍頑強と見て、水偵や中攻で攻撃爆撃されるのを怖れて即日引揚げることにした。武器を海岸に捨てて、50数名は潜水艦に引上げたが、大部分は翌日になつた。

そこで一方で取残されたコイテ大尉の方では「もう駄目だ」とあきらめて、降伏文書を島民に托したのである。米軍は翌18日夜になつて残り大部分が撤退したが、連絡つかないままに9名は、本當に取残されてしまつたと云う訳であつた。

金光兵曹長以下の将兵の果敢な攻撃に怖気づき、我空爆に脅かされた米軍は、周章狼狽して退却したのであつた。

正しく「死せる金光隊長、生けるカールソンを走らす」であつた。この戦闘は、小規模ではある

木ノ下甫氏の

マーシャル戦記を読んで

長崎 井 上 義 夫

が、米軍にとつても又我方にとつても、新戦法の採用として注目されるものがあった。

米軍の潜水艦による奇襲上陸は、一応、牽制作戦としては成功であったが、成果はむしろ失敗であつた。

我方でも、大艇に重武装兵を乗せて急速増援したことは、新しい方法であつた。

米軍戦死28名、捕虜9名
我軍戦死46名、生存者は27名
(主として通信兵、主計兵等)であつた。
参考「マキンの戦闘については
実松謙著「日本海軍英傑伝」に、
その詳細が書かかれている。

私は昭和17年初頭クエゼリン本島第6防備隊(後の第61警備隊)の庶務員でした。

環礁20号に木ノ下甫氏(当時の第6根拠地隊参謀)のマーシャル戦記―その四―が掲載されておりましたが昭和17年2月1日の初空襲の記事を食い入るように読んで「ア、そうだったナ、そうだった」と、當時を昨日のこのようになと思ひ出しておりました。これで多数の隊員がやられました。根拠地の司令官部はすぐ近くでしたが八代司令官、法元先任参謀が戦死なさつたのも知つて無念の思いをしたの

× ×

中部太平洋戦歿者遺骨収集

政府派遣団随行記

浮田 信 家

昨昭和48年厚生省が行う遺骨収集計画の中に、マーンシャル諸島、ギルバート諸島が含まれていることは、年度の初めからある程度知らされておられ、民間協力者の同行許可のことも察知できたので、年度はじめから、環礁の発行を一回増し、この計画を周知徹底して、どなたか希望の方に行って頂きたいと念願しました。まず5月発行の18号で全貌をおしらせし希望者を待ちました。

所が女性には許されぬ、約2ヶ月余を要し、全期間七百トン内外の船内居住という条件であったためなかなか希望者がありません。厚生省では特に本会の参加を歓迎され、人数に制限なく、お誘をいただきましたが、前記の条件が総て簡単に承でできず、結局希望者がありました。

それが引き替え私にはこの総て条件が、願ってもない幸せと感し、英霊にひかれるような気持ちで、上司の許可を得て、喜んで政府派遣団のお供をすることにしました。政府派遣団とは

- 団長 厚生事務官阿部新一郎殿
- 団員 同 芦名 久吉殿
- 同 同 竹之下和雄殿
- 同 同 小林五十吉殿
- の4名、それに民間協力者(敬称略)は
- 日本遺族会 後藤征昭

ミレ島第四施設部会 服部勇五郎・伊藤六十三・桜井孝男・船本弥助・堀部正美

ミレ島第66警備隊 竹井清・上田清美・植木徹

南洋第四支隊モートロック 足立健吉・松本伴蔵・秦野忠雄

九五二海軍航空隊 石森義重

日本青年遺骨収集団 宮下昇士

塩山大介・永田陽・本間博

行・藤森亮二・土井誠・高尾

誠・野村一成・吉野晴彦・渡

辺光也・松浦新朗・今村正助

也 畠山幸久・大沼裕・柴田哲

株式会社CSL 小川 信一

東海大学職員 五十嵐正晃

これに私を加えて32名でした。

船は東海大学の所属船東海大学

丸II世船長佐藤孫七殿で昭和43年

竣工した海洋調査実習船で43年

全長51米、幅9米、総噸数七〇二

トン、航海速度一・八ノット、

各室冷暖房完備の船です。

この航海では乗組員船長以下24

名、東海大学の海洋調査実習学生

20名が乗組んでいました。

行動

昭和48年10月11日(木)午後東京芝浦埠頭を解纜出港。出港時の模様は本誌20号に記載とおりです。古賀敏之助顧問はじめ多数会員のお見送り、重ねてお礼しま

す。静かな五日間の航海の後16日サイパン着。政府職員は関係機関との打合せ、船は清水燃料等補給、19日サイパン出港。21日トラック島着。ここで関係機関との打合せ、補給が行われ、22日トラック島を出港、翌23日モートロック諸島着。遺骨収集作業はここから始められました。以後寄港の島名、収集月日、収集数次のとおりです。

島名	収集月日	収集柱数
モートロック	10・23 24	三
クサイ	10・29 30	三
マロエラップ	11・4 5 6	一三七
ウオツゼ	11・6 7 8	一〇五
ウートロック	11・8 9 10	二九
ロングラップ	11・12	一
ウジャエ	11・13 14	一五
クエゼリン	11・15 16	一
アイリングラップ	11・17	九
ヤルト	11・18	一〇
エボン	11・19 20	一八
ミ	11・21 27	二二八

収骨作業

収骨作業に最も必要なのは、正確な埋葬地点の調査ということですが、この調査は戦史は勿論現地から帰還した人々、埋葬当時の事情を聞くことで、厚生省はあらかじめ詳細な地図、埋葬状況を調べそれを根拠に作業を進めました。帰還者の記憶は30年も経つていいため薄らいでおり、戦後現地在を立つて内地へ帰還のときは草木のない焼野原であり、米軍の監視下記録の携行もならず、例え当時は多少の記憶はあっても、内地帰還のときは、それを整理するどころかその日におわれ、何年も経

った筈です。30年後の今は草も木も育ちジャングル化しています。従って復員者から事情を聞いて島に行っても、その場所を捜しあてるのは至難です。その話をもとにして島民に聞く。今回も大部分の方法で発掘しました。

特に今回は、それらの島で従軍し、戦闘をし、戦友を埋葬したという方々の同行をお願いしました。極言すれば遺骨収集にはこれ以上の方法はない筈です。ところが必ずしも、そうでなかったものの例は最初のモートロックでした。この島からの復員者3名。そして目標とした忠霊塔は当時のまま残っています。10月23・24両日収集団員約半数がこの作業に当りました。忠霊塔から僅か40米位に埋葬してある筈でした。そこは現在ハイスクールの校庭になっており、23日は運動会のため午後2時まで掘れませんでした。島民と同時に作業を始めました。島民も大勢見ており、中にはスコップをとって手伝ってくれました。やがて一体、二体と発掘されましたが、その次の三体は子供のものばかりでした。

よく調べたところ島民の墓地でした。既に不審の方もありません。よから附言しますが、島民死亡の場合遺体は丁寧に土葬にします。材木のないところですし、石材もないので石碑も柵もなく、やがてお参りもなくなり平地となります。ですから墓を掘られ、遺骨をあけても抗議もありません。30年前に埋葬したことは確かでもその後のことがわからず戦歿者の遺体はお迎えできませんでした。

もう一つの例は、最後のミレ環礁中タカイワ島でのことです。やはり復員者3人同行しました。現地にこの想い出は海岸から道路を行っての想い出は海岸から道路右側に埋葬したと云われ、島民の方も同じことを云いましたので、二日に亘って作業をつづけました。が全くわかりませんでした。

珊瑚礁を砕いた塊と共に埋葬したところはそれを取除くのに困難はあったが、一般に内地の泥と異なり珊瑚礁が砕けた砂が主であるから泥の埃がとぶこともなく、作業はやりやすいが、酷暑の下での作業故に中部太平洋の遺骨収集も容易な作業ではありませんでした。

予定の各島の収骨作業を終了して11月28日マジュロに戻りました。マジュロからボナベ島とサイパン島により関係機関へ謝礼、連絡すませ12月8日夕刻サイパンを出港し14日東京港に帰りました。二ヶ月に亘る期間佐藤船長外船員一同から寄せられた御親切に対しては終世忘れたい印象を与えられました。

また阿部団長外政府派遣団の方々及び民間協力者の総ての方々は私がかけた心なれた最高年令者の故をもって、心からお礼を申し上げた美しいお気持ちに御礼を申し上げます。適切な言葉を知らぬ程の感激を与えて下さいましたことを申し添えて、随行記の筆を措きます。

× × ×

クエゼリンのお墓は島の人々で

いつも綺麗にお祀りしています

クエゼリン島の一住民

お便り頂戴しながら永い間ご返事申し上げなかつた非礼何卒お許し下さいませ。勤めをもって居りその上、家事の雑事に追われ、日本字も忘れるばかりで、つい心ならずも無沙汰申しあげてしまいました。皆様お元気で御帰国、そしてご遺族のお喜び何よりと存じます。当島に眠る英霊のお喜び、とてもとてもこの上ないことと信じております。

お言葉のクエゼリンの近況でございますが、何の変わりもない毎日でございます。只今雨期で凄いいスコールが突然襲ってきて先が見えない程かと思えば、忘れたように暑いお日様が見えます。

当島待望の年中行事のカーニバルも毎年五月二十七日のメモリアルデーを最終日として開かれますが、本年は貨物船の事故でカーニバルは六月七日から十日と日延べになりました。そのためメモリアルデーも六月十日に変更という始末でございますが、私は矢張り、五月二十七日例年通りお参り致すつもりで居ります。

昨年迄は日蓮信者の方が妙法蓮華経方便品第二、如来寿量品第十六を唱えて下さり、私が般若心経を唱えさせて頂いて居りましたが、米本土にご転任になり本年は

私が下手乍ら両方のお経を、一生懸命心をこめて唱えさせて頂いて居ります。墓所も週一回必ずガデンシヨップ(造園業)の人々によってパワーモーターで綺麗に刈り込まれご参拝の折御覧になられたそのままの状態の日々でございます。日系の男の方達も随分とお参りにゆかれ、何かとお心を配っていらっしゃることは私共によく解ります。当島とルオットの両墓所共、善意ある方々の手でちやんと、お守り致しておりますから、何卒ご心配なませぬ由を皆様にお伝え下さいませ。

お参りに参りましても、たとえ造花でありましても、異つたのが入っており何か供えられております。その点どうぞ充分おみとり下さいまして決して決して私の事など改めてお書きにならないで下さいませようくれぐれもお願ひ申し上げます。

徳原様、福田様、大里様その他多くの方々の善意あつてこそ、土台が出来たのでございます。

クエゼリンのミサイル基地のミスタービービーのご協力、これは日本の皆様のご想像以上のものがございます。当地の私共は本当に、彼には心から感謝申しております。ご遺族の皆様、あなたのお父様、ご主人様として又お子様のご戦死は大きな平和の礎となられたことをお知らせして下さいませ。心ある人は国籍などに関係なく英霊に心からそのご冥福を祈つて下さいませ。

何時の日か、もっと多くのご遺族の墓参の出来る日を信じ朝夕お祈り申し上げます。ご遺骨はマーンシャル諸島やギルバート諸島にありましようとも、霊様はご家族の許に帰られていらつしやるのですから、ご遺族の皆様、お心強く生きていらして下さいませ。様心より皆々様のお幸せをお祈り申し上げますとお伝え頂けましたら何よりと存じます。

お心にかけて美しい日本切手沢山はって下さいまして本当にありがとございます。会長にご就任のこと何か大変なお仕事と存じますが、皆様のお力になって差上げて下さいませ。ご自愛とご健康日々お祈り申し上げます。

お手紙書き終らない内に又何日か過ぎてしまひまして、今日27日メモリアルデーでございます。矢張り祭日となりましたが、徳原様は朝の内お掃除にいらして下さり私は仕事の為午後徳原様ミセス・デービーひでこ様と三人でお参りに行ってきました。そして島の皆が、一週間後にカーニバルで平和を築しめるご報告お礼も申し上げて参りました。浮田様永い間の皆様のご努力が実つて、昨秋の故国からの墓参が現地の霊様をどんなに喜ばせ安らぎを得られてるか知れませぬ。どうぞ御信じ下さいませ。徳もなく、修業も浅い身でございますが本当に身に沁みて感ぜられます。

決してお粗末にいたす事のない事は私自身信じて居りますから、ご安心下さいませ。一・二年の内に私も墓参に訪日のつもりでございます。その折またお目もじの機会も得られるかと存じます。重ねて私個人のことについて決してお書き下さいませんように。クエゼリン島の住人として当然のことだけでございますから。

註このお便りは昨秋私が墓参の時中心になってお世話下さつた方からです。基地にご勤務の方の奥様ですが自分一人立派なことをしているかの如く誤解されないうよう注意して下さいと繰り返し願われたので、ご本人の意を体し匿名とし全文そのまま掲載しました。49年6月3日 浮田

玉碎直前の四十日
— 運命のブラウン派遣隊 (その二) —

ブラウン(エニウエトック)

玉碎直前の四十日

— 運命のブラウン派遣隊 (その二) —

岡山 高田 源次郎

昭和十九年一月二十九日

朝から東の空ばかり見る(クエゼリン環礁の方向である)。煙草や羊羹が飛んで来る様な、楽しい気持ちで待つが機影なし。遂に夜まで来ず。がっくり。

一朝、本隊より通信あり。「遠距離索敵の準備をなせ」直なぜか張詰めた空気となる。直ちに燃料満タン。爆彈二発を降し、残りを二発とする。機銃及び弾倉の点検整備。予定搭乗配置決る。私は第二次となる。本隊よりコース指定……クエゼリンの南と北に一機づつ索敵。クエゼリンの本隊からは手の届く様な近い距離である。我々に索敵させるというのは、さては本隊は既に全機を失つたのだナと、全員直

感する。

出発……。全員海岸に出て見送る……。帽振れ……。離水する。二機がかすむ。ところが一機がすぐ引返して来た。秋葉兵曹の機だ。フロートに何かあったらしい。直ちに予備機と乗換えて出発し。再び帽振れ……。小さくなるまで振り続ける……。

全航路七百マイル余、無事に二機共索敵を終って帰投した。良かった。良かった。何も発見せず……。夕方から高空を飛び機影しきり。敵味方不明。フロート破損の二機から機銃を取外し、対空陣地二つ作る。ドラム缶の口を切断し砂を入れて丸く置き、中央に機銃を据える。そして椰子の葉でスッポリ覆う。夜眼が冴えて眠れない。飛行兵全員航空疲労回復剤を飲む。葉効あり、朝までグッスリ

◎水鉄砲

一月三十一日
早朝より索敵準備して待つも指令なし。待つほどに、「即時待機にて待て」と。

直ちに飛行機内にて待つ。暑さに参る。汗グッンヨリ。これでは高空飛行は無理である。(高空では温度が低くなるので)

仕方なく海岸の木陰にて待機。時折遠雷の様な音がする。高角望遠鏡にて其の方向(エンチャビ島方向)(註・表紙誌名にあしらった図はブラウン環礁でありエンチャビ島は最北に、ブラウン島は最南にある)水平線を上下する相当数の機影あり。敵味方不明。その内カタカタと機銃音が遠くで聞こえる。私達への物資を運んで来た警備艇が銃撃を受けて居

る。敵艦載機だ……。直ちに警報をと思うに陸軍さんは堅苦しい。「確認するまでは駄目」と、頑張る。海軍側見張員はあきれて降りて来てしまった。その内隣のテニウエトツタ島を銃撃するのを見る。このままでは被害が大きくなる。どうするか……。意を決して機銃を二三十発連射する。慌わてた

陸軍さん整列したり短い砲を引廻したりする。一層悪い……。又連射する。やつと部署に就いた。始めてサイレンが鳴り出す。グラマンF6F8機が近づく。銃撃姿勢だ。来るぞ。私達はそのまま陣地に残る。元氣の良い血の気の多いのが三人づつ六人だ。来た。射て射て。

九十八発の弾倉が忙がしく廻る。交代で指揮・射手・弾薬手……。赤いアイスケークが飛び交う。敵の弾道だ。見る間に破弾した水偵は火をふいた。くそッ……。

何十分……何時間の様な気がする。F6Fの帰った後にはわが水偵の勇姿は既に無かった。海岸で二機はグニャグニャ。沖では海底に……。残念……。しかし気を許すことは出来ない。

必死に潜水し、後席の機銃を外し、弾倉を上げる。この二挺を予備銃とし二つの陣地に持ち込む。来た来た……。

戦爆連合で二三十機。後は一日中応戦。なにぶんにも航空機用機銃なので放熱装置がない。連射につぐ連射のため煙をあげる。油をかけ。又海水で冷しながらバリバリ。附近の陸軍さんは、我々の射つ早さ、敏捷な動作に、日頃地

上でノロノロブラブラしていた飛行兵とは思えないと見学して居たとか。命中していると思うのに確實な戦果なし。

今日も朝からF6Fグラマン、アドベンジャー、ドントレスの攻撃をうけ地上設備は全部灰になった。陸軍さんには相当の戦死者が出た様子。我等昨日と同じ。射つ。油・海水で冷却する。全員油にまみれて応戦。遂に一挺は曲って作動せず。三挺となる。午後一息ついたとき残弾の少なくなったことに気付き、弾薬庫にあるものをとりにゆく。二人が飛び出してゆく。二日で六千発も射ったこととなる。

弾薬庫に来て見ると影も形もない。被弾して爆弾が誘爆したらしい。別の予備弾庫は……。無事だった。しかし五千発しかなかった。陣地の残弾合せも六〜七千発だ。帰って六人で協議する。敵の上陸に備えなければ……。又昨日からの情况で、厚い鉄板とゴムで防護されたグラマンに対しては、7ミリ機関銃位では水鉄砲と同じだと言う事になり、対空射撃は中止することに決定し隊員の居るジャングルに移った。以後この機銃を水鉄砲と呼ぶことになった。

◎羽を取られたカラス
二月二日
本隊より電信あり「陸上戦闘準備をなせ。水島暗号書其他機密書類を焼け」早速全部を焼却し武器を調べた。

先の水鉄砲 三挺
九九式歩兵銃 五挺

私物の短刀 一振
これが派遣隊員42名の全武器だ。心もとなないこと、岡に上ったカッパ。いや羽根を取られたカラス位だ。

◎時限爆弾
二月三日
本隊からの電信音特に弱くなる。苦しい戦闘を続けており、コンクリートでかためた戦闘用電信室も使用不能に陥つたらしい。定期的なグラマンも去った夕方、ホット一息いれて海岸を散歩中、島の中央部で煙が上がった。何んだらう?今ごろ

数分して又一つ上る。念のため退避する。考えてみると海軍電信室附近である。急いで行くと。送信中をやられた。艦砲射撃らしい。島の南部に移動する。電信機をリヤカーに積み込み、歩き出すと轟音一発、足元よりグラグラときて、体が宙に浮いた。椰子の木と一緒に……。地上に落ちた。上から砂や木が……。必死に走る。何時の間にかスコップを手にしていた。しかし電信機が気になる。そろりそろりとひき返す。リヤカーに積んだ電信機だけがポツンと、無事だ。岩の中に入る。走る……。砂の道を「ヘト」になる迄。一人二人と出て来る隊員。

「手伝え……」
もう階級の上下は解らん。南部ジャングルに……。何分か置きにドーン……。時限爆弾であった。

◎ああ……九五二空
二月四日
本隊より最後の電信

「敵輸送艦礁内に侵入。我これと交戦中。撃滅を期す。派遣隊員本日迄の労苦を謝す。ご健闘を祈る。サヨナラ」
忘れぬ事の出来ない電文である。隊員一同本隊の玉砕を認める。先にマキンで一部玉砕し、本日再び我等42名のブラウン派遣隊員を残すのみで九五二空は全員南海の孤島で玉砕……。ああ九五二空。連日の様に夜になると陸軍さんの戦死者が私達の横を運ばれて行く。島の南端で焼いて居ると聞く。

二月五日
陸軍さんより武器を貰う。戦死された方達の物と思われる。血だらけの三八式歩兵銃と弾丸百二十発。手榴弾二発あて。之が玉砕迄の弾薬かと思うと淋しい。自分はこの機銃で……。水鉄砲でも上陸して来る米軍には充分だ……。

対空射撃を中止してからグラマンが超低空で飛び廻る。一寸目立つものでも出すと、バリバリと撃ってくる。アメリカさん弾が多いらしいな。と……。一日中タコツボにて過す。中には堀り下げ過ぎて出られなくなつて、夕方助けて呉れ……。

夜通し海岸に陣地作り。それを昼中敵さんが爆弾の雨で埋めて行くの繰返しである。

◎敵輸送船発見。玉砕を決意する
日没前陸軍より敵輸送船七隻発見と知らされる。直に高角望遠鏡にて同方向を見るも、暗く確認不能。早速偵察員にて予定上陸時間を計算する。今晚十時と予定し最後の決戦準備に移る。
(16頁へ続く)

愛児を祖国に捧げた

慈母に贈る

東海大学丸II世船長

佐藤 孫七

遺骨収集団に随行の浮田氏のノットに、一輪のポインセチアの押葉が大切そうに挿んであるのを見た。クサイ島を出て夜航海の晩、同氏が船長室に見えたのを幸い、その花のいわれを尋ねた所同氏は次の話をして下さった「私は六年前にもマーシャルを訪れコブラ集貨船で群島を廻った。コブラの溜った島に寄ってこれを買集める船だが、私はこの搭載作業中二日も三日でも上陸して遺骨や日本人生存者の有無を調べた。8月末ウートロック環礁のアオン島に寄



アオン島にて右ニエラシャさん右筆者

ったとき、年輩の島民ラミミさんとエラシャさんの二人がたどたどしい日本語で当時のことを話してくれた。あの頃この環礁にはウォッセからの分遣隊が四・五十名主島のウートロック島に派遣され、その内長島飯田、清水、神の四名が穀粉作りのためアオン島に来ていた。2人共4人の名を覚えていた。年月日は定かでないが、戦史によると米軍は19年3月から4月にかけて、この海域の島を次々に掃蕩、占領したとあるからその頃の事であろう。或る日主島が激しい砲撃、爆撃を受け後多数の戦車が西岸に上り、東に向い難打して全員玉砕の目にあった。主島まで僅か8キロのアオンの4名は早速島民のカヌーを借り増援のため本島に向ったが、途中銃声も絶え、味方の敗北を知って、アオン島に引返して来た。彼等は自決の決心をした様子だったがエラシャさんやラミミさんは生命の貴さを説き、米軍が上陸したら降伏すれば良いと説得したが、聞かれず藩刀を借り、この刀を刺した近くに我々は居る。若し死んでいたらどこかに埋めて下さいと頼んでジャングルに入られた。藩刀は島民にとってかけがえのない宝なので、休むときも必ず椰子の木に刺す習慣であ

り、このことで不審に思ったのではなく、あまり久しく姿を見せないのので気になり探しに出かけた所藩刀の下には、二人は割腹自刃、二人は縊死を遂げておられた。遺体は私共の墓地に埋葬したと話してくれた。

平常は島民と友達となり、為になることを教えて下さり、又島民は戦闘員でないから遠い離島に避難するよう云ってくれた理由。私は胸の中であなた方四名はこの2名の島民に守り続けられるでしょうと告げてアオンを去った。アオン島にはいたるところ一面ポインセチアが咲き乱れていたもので、四人を思ふよすがに一輪手折ってノットに挿んでいる。ちなみ今回の子定にアオンのないのは残念です」と話された。团长にも希望されたらしく、その後团长から相談があったので主島の出港を少し早め寄港することになった。

11月9日主島に寄港取骨作業中浮田氏が両島民の消息をたずねたところラミミさんは三年前他界、主島に転住のエラシャさんは風邪のため寝ていたが、病を押して村長のシラーさんと本船に便乗、ご自分の地所であるアオン島に同行して下さった。11月11日午前10時アオン島投錨。取骨作業は早速開始された。浮田氏の話では前回聞いた通りの場所であり、一米半も深さから四体とも収容され、本船にお迎えした。

乱れていた。私も一本手折った。四水兵の霊永へに安かれと祈った
○大軍海を圧して逼るウートロック軍船海を覆って水あるを判たず軍機空に満ちて日射の隙なし嗚呼平和の緑島瞬時に修羅場と化す

○砲爆炸裂万雷の怒るが如く飛弾まさに豪雨を浴びるに似たり孤軍奮戦火砲咆哮す
彼私の砲爆為に天日暗し報国の一念男子の魂
○肉弾飛空空中に舞い真紅の流血リーフを彩る
凄惨悲惨死屍踏んでかつ戦う正に鬼神この子等の為泣く
○無援の孤軍食するに物なし苦戦悪闘攻防続く
我本隊に合さんと欲し長駆歩礁を試む
天時に利あらずして大潮来りて我が行手を拒む
無念天を恨んで我が陣地に返す
○股々たる砲声今止むは如何んぞ矢弾尽き果て抜刀切陣の兆
果せる哉各々人事の最後の任を衆寡敵せず力尽き全軍玉砕
祖国の栄を祈りて遂に異郷に計る
○我藩刀を借して自決せんと欲すラミミ氏慈父の如く懇に我等を戒む

「子等よはやまる勿れ我等と共に為す術あらんことを」
○敗軍の士今なにを望まんも士道有情離愁の交友
我が心情乱れ迷ふ哉切なり涙滂沱として全顔為に濡るる感激して音声ならず深く謝し以て土道をとって終る
○ラミミ氏深く哀しみ祖先の墓に我等が骨を葬る

且つ埋むるに深堀を以ってし依って他者の触るを許さずかくて義父の情不変にして我等を弔うこと久し
○爾来巡り来る四季の別なき三夏の島に眠ること幾星霜夢は故山の野川を巡り
霊は父母が住む軒辺の下をさ迷うされども帰り来り住む我が居は南海の果

椰子の実る小島幽冥の宿
○故に春の紅梅桜花薫るに匂いなく秋の紅葉菊花の美も見る色なし鶯鶯杜鵑の囀歌聞くに声なくまして枯木雪花の美遙か叶ぬ望なれど
○南十字の星は夜毎に訪れリーフをわたる涼風の音は幼児の母背の子守歌を奏で可憐なポインセチアの花は朝な夕なに我を慰む
○かくて頭上にささやく椰子の「兄弟家族」と共に過すや久し祖国の船を待ちわびること三十年余
今、東海大学丸II世長駆渡洋し来るこの果ての島に
○同胞我等の骨を拾う
而して地下のラミミ氏に謝し幽冥を隔つ

初めて安らに眠る二世の室
祖国の燭蠟は燃え香煙はゆらぐ
○思いは尽きぬ生前一縷の望みを我いつの日か故郷に帰らんも
今宵羽翼を得て即慈母の膝上懐くの中に
幼児に返って過ぎし日の凡てを語り
○常夏灼熱アオンの島

「中部太平洋戦歿者の碑竣工並びに追悼式」に参列して

藤 崎 雅 彦

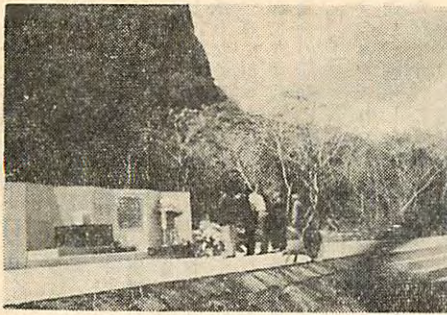
第二次大戦で中部太平洋諸島、海域で戦歿した旧日本軍人、軍属二十四万余人と犠牲になったミクロネシア住民の霊を慰めるため、厚生省が太平洋諸島信託統治地域政府並びにマリアナ地区行政府の好意で、東工大名誉教授谷口吉郎氏の設計により、サイパン島北部バナテル(ラスト・コマンド・ポスト)に「中部太平洋戦歿者の碑」の竣工をみるに至り、四月二十五日午前十時(現地時間)から追悼式が行われた。

慰霊碑について

を象徴するものである。石材は岡山県産の万成白みかげ石で、それを重量感のあるどっけりした福島産の浮金みかげの台石の上に安置し、さらに岡山県産の万成みかげの台座の上に据えてある。この台座の下に遺品の銃剣、鉄かぶと、飯盒、水筒がステンレス、スチールの箱に密封されて納められている。石碑の後方には、屏風形の障壁が造られ、表面は茨城県産の稲田みかげ石張りとし、裏面はタイル仕上げで、表面両側と裏面左側に茨城県産の黒の稲田みかげの銘板がはめこまれ、表面向って右側に次の碑文「中部太平洋戦歿者の碑 さきの大戦において 中部太平洋の諸島及び海域で戦歿した人々をしのび平和への思いをこめてこの碑を建立する 竣工 昭和四十九年三月二十五日 日本国政府 太平洋諸島信託統治地域政府」が刻まれている、この碑文の揮毫は日展理事金子鶴亭氏によるものである。

追悼式の模様について

追悼式に参列するため、日本からもおむいた三百八十名と現地、米国籍者多数参列のもとで、二十五日午前十時より現地でおごそかに追悼式が行われました。ボスで式場に着いて先ず目についたのは、砲撃のあとがなまなましく残っている崖の下に、非常に立派



中央黒服が筆者

な慰霊碑とその前両側に天皇皇后両陛下より捧げられた菊の花輪。式場は、先発の厚生省関係者や現地の人たちによってととのえられ参列者一同着席した。そして、追悼式は、厚生大臣の式辞、遺族代表二名の除幕によっておごそかに始められた。厚生省関係の人の司会進行によって、参列者一同の黙とう、目を開くと、快晴の空に白い鳥や黒い蝶が飛んでいるのを見た、次に、内閣総理大臣の花輪、太平洋諸島信託統治地域高等弁務官の花輪、マリアナ地区行政官の花輪、次に、遺族代表による追悼の辞は泣声で終始、参列者も涙してそれを聞くという追悼の辞であった。次に、太平洋諸島信託統治地域高等弁務官のあいさつ、マリアナ地区行政官のあいさつ、次に、参列者代表等の献花、そして最後にサイパン市長のあいさつがあり、市長は「たとえ戦歿者の遺骨が日本に持ち帰られても戦争で流された血はこの島々にいつまでも残っているのです。日本人同様この碑を守ることをお約束します」とごあいさつ下さいました。誠に、感激にたえない約一時間続いて、キリスト式で、また仏式で約一時間半、仏式読経の間に内地からはるばる持参してきたおくもつ、お酒、お水がそなえられ、お線香や香がたかれ、参列者ひとりひとりのご焼香で、戦歿者や現地民の霊を深く慰められたと心から思いました。私は、東京都の遺族代表としてこの式に参列し、慰霊碑に花を捧げられたことを心より感謝しております。二度

とこのような戦争を繰返さぬための努力と平和への願いをこめて追悼式に参列した次第です。筆者「クエゼリン」第六通信隊附電波物理研究所研究官 故藤崎弥三郎殿長男 現在日本工業大 学助手

(3頁から続く)

その場合幕参が承認されるかどうか、まだ接洽していないので不明です。仮りにビザが得られたとした場合、マジユロからハワイに寄ってハワイから日本に帰るならば、この航空運賃は二一九、七八〇円。マジユロ往復より二万円程度高くなります。

以上は日本航空・パンアメリカン航空・コンティネンタル航空の各社に問い合わせた結果です。マジユロ着後の行動ですが、マリシャル諸島内各環礁への往復は六年前と同じくコブラ集荷船による外ありませんので肉親の眠った島と限定されると実現困難です。

マジユロは開けすぎで戦争時代を想像する跡がありませんが七、八時間の航海でゆけるミレ島には戦争の傷あえすれば幸いです。同島に渡れさえすれば幸いです。それが不可能でしたらマジユロ環礁のどこか離島に渡れば島民の方々の様子の一端に接することが出来ると思います。

ですから月曜に羽田発。火曜にマジユロ着。その日と水曜に木曜をマジユロで過し、金曜に帰るグアムに泊って土曜に羽田に帰ることが考えられると思います。

ギルバート諸島の場合 昭和44年1月環礁9号で当時の

タラワ島往復の航空便のおしらせをしましたが現在も変わっていないようです。日本からホンコン、漳州のシドニー、フィジー島を経てタラワ島に行くのですが、その往復航空運賃五四五、七〇〇円。この方法ですと、中には一週一回という個所もあって、ホテル宿泊代が大きく加算されることになるうかと思えます。

今回調査中ナウルとタラワの間に二週間に一回という定期航空便があるらしい話をききました。もしそうでしたら鹿兒島空港からナウルまではナウル航空の飛行機(環礁17号16頁と環礁18号7頁参照)を利用し、ナウルからタラワに行けることとなります。ホンコン、シドニーを大廻りすることを考えるとも、よほど距離が短くなるので運賃もずっと少くなると思います。今回本号にのせるには、時間的に間にあわないことをお詫びします。

むすび 以上現地訪問ご希望の方に僅かながら資料をお知らせしました。20万30万というお金は仲々容易ではありません。又日本から翌日は赤道直下の酷熱地です。時期によっては気温が激変しますので、お一人お一人健康の配慮も必要です。今から希望を伺って、希望者があれば計画をはじめめるのですから、実現するとしても明50年の春以降になりましょう。

一度希望して都合でとりやめるのは勿論さしつかえありません。この位の日数、経費ならいってみたいとお考えの方は7月末日までに本部までお申越し下さい。

◆会員だより◆

クエゼリン戦歿者
西原健郎殿弟
福岡 西原 康雄

二月六日の三十年忌には参列致し、南方諸島を歴訪されたお話等承りたく存じて居りましたが、昨年暮に母コウが死亡致しまして参加できず残念でした。母は戦後遺族会の活動に多大の関心をもち、「環礁」と「無二期」(海兵62期クラス会々報)だけは丹念に眼を通し、戦死した兄の佛を偲んでいました。昨年冬の石油不足の際に急に寒波が襲い、肺炎を併発し、三日の中に病勢悪化して死んでしまいました。86歳でした。

死後身辺を整理致して見ましたら、幾ばくかの貯金が見つかりましたが、これも恐らく、兄の扶助料の一部かと思えます。

私が受取るものでもなさそうです。ので僅かですが会に寄附させて頂きたいと思えます。どうぞお納め下さい。

(註現金書留郵便にて金十万円)
(封入お送り下さいました)
(49年3月9日受)

タラワ島戦歿者
奥山篤雄殿妻

秋田 奥山 きの

東北の片田舎も花見の頃となりました。二月の直会旅行の御礼状も差し上げず失礼致しました。実は息子の所で遊んで帰りましたら私より先に写真まで届いてお

りました。本当に楽しい集会でございました。来年も都合が出来たら参加させていたいただきたいと考えております。

一泊二日の旅行の間に北海道・九州・種子島など全国の各地から集まった方々とお話しあいの中に、終戦後の皆様の生活努力、そして今日を迎えたお話の数々、本当に参考になりました。私もそれではと、思いを新にして強く生きることが、胸に誓いました。

(49年5月8日受)

ブラウン島戦歿者
寺西正俊殿遺児

富山 池田 淑子

拝啓 こちら北陸は、富山もこの数日の間にすっかり春の香りが感じられようやく梅の蕾もふくらんで参りました。

先般三十年祭に当り靖国神社に参拝の折にはいろいろとお世話下さいまして誠に有難うございました。この祭典で初めて母と叔母とお参りする機会を得、そして心ゆくまでまぼろしの父(私にとって)と神前での対面が出来て万感胸に迫るものがありました。

そして又同じ境遇の方々を親しくお話し合いが出来、本当に東京に行つてよかつたこと、しみじみ喜んでいらっしゃるのをご存じ下さいました。いろいろとお骨折下さいました会長様初め佐竹様、岡野様、安藤様にはお疲れがでませんでしたでしょうか。快い旅の出来ましたのも貴女の方のお蔭と厚く

御礼申し上げます。現在私は母の住むすぐ隣町に嫁ぎ、子供も三人おりますが、主人共々全て康健で平和な毎日です。この幸福も國の為に戦死なされた方々のお蔭あればこそと思ふ昨今ですがやはり写真を見るにつけても父がいればたらと残念でなりません。

父は私の2歳の時ブラウン島で玉碎したと聞いております。ですから私には全く父の面影はないわけです。

この度の参拝でブラウン玉碎直前の四十日ヶを前号の「環礁」に記された岡山の高田様に偶然お会い出来、当時のブラウン島の様子など詳しく説明していただきましたが、私も子供達も大きくなって手がからなくなりました。

機会あればブラウン島へ立入りなれないとしてもマリンシャル方面へ墓参に行かれます場合は是非とも参加したいと願っている一人です。無念の涙をのんで散った父達の戦地の跡が見たいのです。そこで思いっきりお父さんと呼んでみたいのです。少しでも父の事を知ってあげるのが、一番の供養だと私は考えています。

そして又今後の遺族会も、私達遺児が受け継いで、お守りしていくべきだと考えている昨今です。

遠い田舎のこととて、なかなか思うようにはなりません。これからは出来るだけ参加したいと願っており。どうか佐竹様も今後共々健康には充分ご配慮なさいましてご多忙の中、大変ではございませんが遺族会に対してのお力添え下さいますことをお願いしてペンを書きます。

(49年2月22日受)

マロエラップ島戦歿者
松木勝市殿弟
愛媛 松木ミチル

良い時候となりました。本部の皆々様お元氣でお過ごしでしょうか。いつもお世話様でございます。

降って私こと、先頃病に罹り、この度は駄目だ、も早あの世とやらへ行きもう帰らないと口走っていたのですが、不思議とよくない、ふたたび蘇生致しました。

それから一寸お尋ねいたしました。今度タロア島の方へはお出にならなかつたのでしょうか。私の方の子はタロア島で昭和19年4月3日に散りました。帰りました方から遺骨もいただいたのですが、それでも何となく、残りの骨を葬ってみたい気持ちですが、老の身の愚痴でございましょうか。

足腰が良ければ、一度行つて来た気持ちですが、体の自由がききません。こんな事書いてすみません。子を思う親心です。お許し下さいませ。

(49年4月18日受)

遺骨収集に想う

熊本 竹浜 健蔵

お互いに人間として生れ、男子として生を享け、共に国家の聖戦に立つ。遅速の差こそあれ、鉄をペンを銃剣に替え、家をいや全てを捨て、東に又は西に。そして私ある者は、東に又は西に。そして私共は南洋群島ミレ島に。

それから三〇幾年、友の肉は砂と変り、不滅の靈魂は、若くして戦場の華と散った。

喰うに食なく悲惨の極に追いつめられての三ヶ年、その間業養失調で倒れ、忽然として固く手を握り合い、息を引きたって幽明境を異にするに至った友も数知れない。すべて國の為に。

その中部太平洋戦歿者遺骨収集が実施され、此処に数多くの遺骨と収集団員全員が無事日本に帰られたと報ぜられ、私共生還者一同肩の荷がおりました。

想えば29年前昭和20年9月28日帰國の途につくとき、進駐軍命令とはいえ何物の携帯も許されず乗船し、島に残留する戦友はそのままととなり、後髪をひかれるとは、この様な時のため、用意された言葉なのか。然し当時としては如何ともなし難く今日に至りました。

本年二月九日佐賀県でミレ島生還者全国大会が開催され、席上厚生省の遺骨収集団に協力者として参加した会員植木徹、上田清美両氏から詳細な収骨報告があり、8ミリフィルムで1時間に亘つて映画に見入りましたが、寂として声なく、哀悼にたえませんでした。

私は遠く離れていて送迎も叶はず、収集団各位のご苦労を唯、お礼申し上げる次第です。皆様方のご苦労によって英霊も定めし浮はれ、ご遺族ご一同も安心なさいましたことと存じ「環礁」を通じ、生還者の一員として、心からお喜び申し上げますと同時に儼に浮在りし日の多くの戦友に心から冥福をお祈り申し上げます。

(49年4月14日受)

× × ×

第10期決算報告書

(自昭和48年1月1日 至昭和48年12月31日)

収入の部

Table with 2 columns: 科目 (Category) and 金額(円) (Amount in Yen). Rows include 前期より繰越金, 会費収入 (48年度分), (49年度以降分), 寄附金等, 受取利息, 預り金, 雑収入, and 計.

支出の部

Table with 2 columns: 科目 (Category) and 金額(円) (Amount in Yen). Rows include 慰霊費, 運営費, 刊行費, 印刷費, 通信用費, 事務所借用費, 振替払込料, 事務用品費, 会議費, 雑費, 副碑製作費, 予備費, 預り金返済 (小計), 次期へ繰越金, and 計.

財産目録

Table with 3 columns: 摘要 (Summary), 金額(円) (Amount in Yen), and 備考 (Remarks). Rows include 現金 (手許現金), 普通預金 (富士銀行, 都民銀行), 定期預金 (富士銀行, 都民銀行), 振替貯金, 負債, and 合計 正味財産.

正味財産の仕訳

Table with 2 columns: 摘要 (Summary) and 金額(円) (Amount in Yen). Rows include 現地慰霊碑維持基金特別勘定, 次期へ繰越, and 計.

以上監事の監査を経て御報告致します

昭和49年2月6日

第11期(昭和49年度)予算

マーシャル方面遺族会

収入の部

Table with 2 columns: 科目 (Category) and 予算(円) (Budget in Yen). Rows include 昭和48年度よりの繰越金, 昭和49年度分会費収入, 附取金利等息入, (当期小計), and 合計.

(注) 雑収入内訳

Table with 2 columns: 内訳 (Breakdown) and 金額(円) (Amount in Yen). Rows include 戦記収入, 会員章収入, その他, and 計.

支出の部

Table with 2 columns: 科目 (Category) and 予算(円) (Budget in Yen). Rows include 慰霊費, 運営費, 刊行費, 印刷費, 通信用費, 事務所借用費, 振替払込料, 事務用品費, 会議費, 雑費, 副碑製作費, 予備費, 預り金返済 (小計), and 合計.

(注) 雑費内訳

Table with 2 columns: 内訳 (Breakdown) and 金額(円) (Amount in Yen). Rows include 会員章製作費, その他, and 計.

49年1月～5月 主要項目予算対比表

(収入)

Table with 4 columns: 科目 (Category), 予算(円) (Budget), 5月現在 (Current), and % (Percentage). Rows include 49年度収入等, 49年度前繰越, and 計.

(支出)

Table with 4 columns: 科目 (Category), 予算(円) (Budget), 5月現在 (Current), and % (Percentage). Rows include 慰霊費, 運営費, 刊行費, 印刷費, 副碑製作費, 職員製作費, and 計.

淡雪の残る2月6日、靖国神社に全国各地から遺族はじめ多数の方々のご参列を仰ぎ、厳粛に慰霊30年祭が行われましたが、早いもので、もう夏の季節になりました。その後お変わりありませんか。前年度の会計報告並びに今年度の予算については、当日の総会でも審議願ひ皆様のご賛同を頂きましたが、ご出席出来なかつた方もありますので、改めて上記の通りご報告申し上げます。何かご意見がございましたら、是非共、係迄お寄せ下さい。さて今年度の1月から5月迄の会計中間集計(主要項目のみ)は左記の通りですが、同予算対比表をご覧下さればお分りの様に本会運営の基本財産である年会費の入金が当初予算に比べ37%、また寄付金は同67%の現状で収入が大変不足しています。今年度最大の行事である慰霊30年祭もお蔭様で無事終了し本会がクエゼリン島に建立した忠魂慰霊碑と同型の副碑を靖国神社の宝物遺品館に献納、そして九段会館に渡辺はま子さんを招いて当時を偲び楽しい一ときを過しました。今後共、会員相互の扶助並びに親睦をはかり乍ら、かつて世界平和を願ひつつ、戦争の犠牲となった英霊を慰さめ、これを後世に伝える為にも本会を旨く運営して行きたいものです。昭和40年から続いているこの「環礁」の発刊も、通常年二回ペースで21号を教え、ますます遺族会の団結を固めているものと思ひますが、浮田会長はじめ役員並びに編集、印刷、発送をされる方々のご尽力の賜ものと有難く感謝して、次集です。私もこの「環礁」に寄せられた多くの記事写真等を通じて、父達の玉碎した当時の戦況また最近の現地の事等を知ることができました。今年度も余すところあと数ヶ月。本会は昭和38年それ迄人知れず2月6日敵寒の靖国神社に個々にお詣りしていた遺族の方が、慰霊という共通の目的のために集合し発会、今日他に例を見ない程充実した遺族会となっております。これからは皆様のご協力を得て誌名「環礁」の如く清らかに、そして会のマーク「南十字星」の様に美しく、その灯火を消さずに大切にしたいものです。ご送金は郵便振替が便利です。よろしくお願ひ致します。

常任幹事 井上賀雄(会計担当)

本年二月六日の行事報告

事務局

一・九段会館の宿泊

4日 2名 5日 40名
 6日 4名 7日 9名
 8日 7名 延員数62名

例年通り5日の夜は本部役員が九段会館にゆき遠路上京のお揃い申上げたが、過分のお喜びに一同恐縮する。

二・慰靈祭

東京では珍らしい小雪の散らつく朝であったが、受付開始の九時前からポツポツ参集所に集まり、多数の方々本部役員と一緒にあって受付準備を手伝って下さる。2月6日午前10時は既に会員の頭にはつきり刻みこまれたらしく、予告なしに参列の方が多かった。このような方は出席者名簿に記載されていないので受付をまごつかせた。正十時拜殿に上り修祓を受けた。三〇八名を大部上廻っていた。三十年祭なので海上自衛隊の最も大きな編成の音楽隊の奉仕をいただいた。副会長の弔辞には、参列者の多くが感銘し、ハンカチの動きが諸所に見られた。

雪故に廻廊を廻って本殿に昇った。行動中海上自衛隊の奏する想い出数々の曲は何れも英霊のため昔なつかしい曲だけに遺族の胸を押し、英霊に対面の雰囲気を醸し出すのに充分であった。それぞれ黙禱、対面、二礼、二拍手、一礼冥福を祈って退下、御神酒を頂いて、参集所から宝物遺品館に席を移した。

三・副碑奉納式

経過は次項京都長谷川田鶴様のご寄稿によつてご承知下さい。

都道府県銘石準備世話人の方々に重ねて厚く御礼申し上げます。又副碑謹製に格別のご尽力下さった第一石材工業株式会社社長内海軍三様、友常石材工業株式会社社長友常充様に厚く御礼申し上げます。

四・昼食

九段会館大食堂

五・定期総会

九段会館美容の間

村上前会長の計を報告、ご冥福を祈る。

昭和48年度事業報告と決算報告
 昭和49年度事業計画と予算説明
 会費値上げの件は昨年度の定期総会・実施の時機を本部に一任されたが、本件は環礁19号で決定の報告をしました。

その他の事業は、本年が玉碎30年に当るため三十年祭を行う外は例年通りを続行することにしました。

六・アトラクション

多くの方が御承知の歌手渡辺はま子様の靖国神社まで届けよかしとの熱演に、それぞれ様々の想い出を胸に聞き入った。

七・直会旅行

本年は特に参加希望多く、大型バス二台を使用し、予定の箱根湯本温泉を往復、途上小田原城、道了尊、二宮神社等を見学、参拝、観光し直会の目的を充分達して、

全員無事夕刻九段会館に帰りました。本年も持寄会費の残金二、一七六円は寄附として本会に頂戴しましたことを附記します。旅行の模様は新潟県高橋まつ様の書簡により御承知下さい。

副碑奉納式に参列して

京都 長谷川田鶴

この度(昭和49年2月6日)は副碑奉納の御式に参列させて頂きまして有難うございました。

心新たに、遠くクエゼリンの島に眠る夫のもとに思いを馳せ、只々有難さで一杯でございました。靖国神社宝物遺品館二階第一展示室東南隅に据え付けられ白布を以て覆はれていました。本殿での昇殿参拝を了えた私達はここに集ってそして奉納式に参列したのでございます。

式は佐藤常任幹事様の司会によって進められご奉仕下さる神官の修祓によつてはじめられました。自然に襟を正す敬肅な雰囲気の中に札幌から参会の会員宮前ハツ子様によって覆はれた白布が除かれました。かねて写真によりお馴染みになった忠魂慰靈碑の全貌にはじめて接しました。

つづいて浮田副会長様から池田権宮司に対し奉納書を読み上げられ之と共に副碑を奉納永く靖国神社に安置し、戦歿者の遺勲をたたえられたい旨をお願いされました。

池田権宮司様から奉納のご趣旨を体しなが靖国神社の宝物遺品館に安置の旨お言葉ありつづいて本会に対し感謝状を贈られます

た。この間私は、あの立派な慰霊碑をいつもいつもお祀り下さるクエゼリンの方々御厚志に何と御礼を申し上げた方々らしいやら、何百万と戦死された方々の中で、このように鄭重にしていただいて英霊は少ないかと存じ、他の遺族の方にも常々話しておられますが、皆様羨しいことだと申されますので、同じく戦死を致したとしても、良い所で死んでくれたと、安心感を抱くことができません。

これゆえに、現地のご親切にほかならず心から厚く御礼申し上げます。もし会からクエゼリンへお便りなさいます折がございましたならばよろしくお伝えのほどお願い申し上げます。

もともと海行かば水漬く屍と、大君のみもとに捧げた夫、今でも悔いることはありません。

直会旅行の想い出

新潟 高橋 たつ

二月中旬、立春も既に旬日前に過ぎましたのに、春とは名ばかり寒さには身に沁み続く今日この頃でございます。

私は積雪の多い新潟に住んでいる関係から2月6日を気にしておりましたが、今年には幸い雪も少なかったので2月2日早々と上京し東京に住む子供のところに行き、参拝の日をたのしみに待ち、六日の朝は5時半に起床、朝食をすませ、7時半小田原にのり、8時半に靖国神社に着きました。東京には珍らしい雪のちらつく朝でしたのでまだ10名位しか見えていませ

んでしたが、幹事の方々はどうせつせと準備下さっておられ本当に有難く感謝致しました。私も安藤さんから名札をお渡しする仕事を頼まれましたので少々お手伝い致しましたが、ほんとにいつも年らのことで感謝の気持ち一杯でした。十時拜殿に上り、十時半には本殿で拍手をうち黙禱の目を閉じるとき主人の出征のときと戦死の公報の入った時の事が目にうかびあそこ、御園のために戦死されたらばこそ、こんな有難いお社でお逢い出来、幾多の人から毎日頭を下げていただき、又天皇様ご一家から有難いお言葉頂戴されたことをちろちろと考え、涙がとめどもなく流れました。

副碑奉納・昼食・九段会館二階の間での定期総会のこと、その席で、外ではお逢いできない渡辺はま子様の、想い出多い数々の軍歌の間に、当時の苦しかった或は楽しかったお話。一曲一曲又一言一言、歌もお話も戦死した主人の所にとどけとばかり、喜しく40分という時間も束の間にごさりました。

これも幹事の皆様のご尽力のためもと本当に感謝で一杯でした。その後二台のバスで直会旅行のスケジュールに入り、箱根湯本の旅館の夜の直会。何もかも忘れたあの笑顔笑顔、北海道から種子ヶ島に亘る各地のお国自慢。楽しい時間を過ごさせていただきました。

種子ヶ島からみえた○○○様の今どき珍らしい大正琴と踊り、今だに印象に残り思い出します。

翌朝はゆくりりした出発、小田原城に豊太閤の昔を偲び、二宮神社では尊徳の訓を思いました。

一部の方には小田原駅、大部の方とは東京駅で、来年もまた元気で逢うことを誓って別れ九段会館で下車して子供宅に戻りました。昨朝からのことを子供にはなしました。晴々として八日新潟に帰宅しました。

今年も近くの遺族仲間が三人程訪ねて来てくれました。一人はガダルカナルで戦死、二人は中支で戦死された遺族の奥様方ですが、

「よかったわネ。毎年そんな慰霊祭をして戴くなんて。羨しい。これら私共も連れて行ってヨ」と心から羨しうでした。私は幸せだと遺族会の一員であることをどれほど誇りに思い、幸福に感じましたことか。来年もまた主人に会い皆さんと幸せをわかちあいましう。申しおくれましたがバッヂのデザインもよく気に入りました。出かけるときはつけていますすが羨しがられております。

寄付者芳名

(五二四名)

今期もまた左に掲げますとおり、多数の有志の方からの御寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

ここに載せました会員の方からは、寄付の外に四十九年までの会費は全部いただいております。中には五十、五十一年と先々までの分を前納下さっている方も多数ありますことを申添えます。

環礁を御覧下さってお喜びのお便りをいただいたり、寄付の御送付によって経済的の御協力をお考え下さる実情に接し、会長はじめ役員一同張り合いを感じ努力をにつけております。

(昭和48年11月1日から昭和49年5月31日までに入金の方)

篤志会員その他

野口 昌義 殿	一〇〇〇〇	高野 庄平 殿	三〇〇〇
松本 国雄 殿	〃〃〃	村岡 達志 殿	〃〃〃
五〇〇〇	〃〃〃	矢崎 寧之 殿	〃〃〃
〃〃〃	〃〃〃	石森 義重 殿	〃〃〃
〃〃〃	〃〃〃	堀部 正美 殿	〃〃〃
〃〃〃	〃〃〃	井上 義夫 殿	〃〃〃
〃〃〃	〃〃〃	小林 重雄 殿	〃〃〃
〃〃〃	〃〃〃	高田源次郎 殿	〃〃〃
〃〃〃	〃〃〃	土屋 太郎 殿	〃〃〃
〃〃〃	〃〃〃	横溝幸四郎 殿	〃〃〃
〃〃〃	〃〃〃	福田 呉子 殿	〃〃〃
〃〃〃	〃〃〃	福田 義雄 殿	〃〃〃
〃〃〃	〃〃〃	木下 甫 殿	〃〃〃
〃〃〃	〃〃〃		一五〇〇

秋田県	宮城県	岩手県	青森県	北海道	山形県	福島県	茨城県	栃木県	千葉県	埼玉県	群馬県	東京都
四〇〇〇	一〇〇〇〇	二〇〇〇	一五〇〇	二一七六	一〇〇〇	一〇〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	一五〇〇	一〇〇〇	一五〇〇
母	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻
熊谷サタ子	鈴木あきの	後藤 征昭	工藤 漢	白山 光枝	野沢 武治	安達 智恵子	工藤 漢	星川 克マ	星川 克マ	石橋 節子	高橋 喜一	田井 南枝
弟	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻
菊地 彦	植木 金七	佐藤 清	塚原 漢	野戸 光枝	金子 武治	三関 智恵子	佐々木 利蔵	松本 清	池田 清	長谷川 潔	秋本 文	山藤 茂
父	父	父	父	父	父	父	父	父	父	父	父	父
田名綱夫	神山 さく	佐藤 清	塚原 漢	野戸 光枝	金子 武治	三関 智恵子	佐々木 利蔵	松本 清	池田 清	長谷川 潔	秋本 文	山藤 茂
妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻
東条 倉蔵	芝崎 俊子	石井 英子	小野 敬資	野戸 光枝	金子 武治	三関 智恵子	佐々木 利蔵	松本 清	池田 清	長谷川 潔	秋本 文	山藤 茂

(7頁より続く)

タンタンタン大きな音がする。スワック また……。

陸軍さんの火焰放射器の充填音と聞かされホッとす。銃をかかえて丸く車座になる。最後の酒を出して盃をまわす。初めのうちは死に方の相談をしたりしたが、次第に言葉を出すものも無くなる。静かな夜だ……。

何時か思いが故郷の空に飛ぶ。父さん母さん幸せに。兄さん両親を頼みます。姉さん頑張り。と何時か疲れて眠ったようだ……。

◎生きて居た

二月初六日
早朝目を開ける。手足を動かして見る。動く……。生きて居る。敵さん来なかったのだ。

高角望遠鏡を立て日の出を待つ。昨日の方向を念の為に見る。……何も無い……。いやあるある。点々と七ツ。何かある。明るくなる。ヤンだ……。ヤンの葉だ……。水平線下にある島のヤンの木七本。陸軍さんの小さな眼鏡ではこれが見えないうた。

この日エンチマビ島と連絡をとる島民のカヌーが無事だったのだから行く。夜中に帰ったが、コースを違えて外海に出てカヌーはバラバラ。しかし向うの様子も知らず。苦勞して居るらしい。夜通し滑走路を修理すると、日中アメリカさんが掘り返して居るとか。

しかし搭乗員を迎えに飛行艇が来ていとの事だ。それならば自分達も……。羽を取られたカラスより今一度空を飛びたい。そして本隊の仇をうち、又この島も救いた

い。トラック島に行けば飛行機はあるだろう……。

電信兵懸命にキーを打つ。成功。ボナベ島と連絡がつく。九五を空遣隊員がここに居ること、四艦隊に連絡してくれと頼む……。

◎ブラウン島脱出トラック島へ

二月初七日
四艦隊より電信あり
「本日日没後飛行艇一機派遣。搭乗員外、九五二空再建に必要な人員三十名乗艇準備せられたし」飛行兵15名。整備兵、電信兵、看護兵、主計兵合せて25名いる。12名だけ残る事となる……。

人選に困った様だ。私達は食糧その他を埋めた場所の地図。前記水鉄砲の使用法の図解等を書く。この愛機が自分の身替りに働いてくれることを期待しながら……。暗くなって大艇来る。投下する食糧……薬品……着水……機長の太った腹にて42名全員乗艇。無事離水……待つていて下さい。必ず再び来ます。心で叫びつつ。夜半トラック島着。お粥を貰う。美味しかった。何よりのご馳走だ。

二月初八日

九〇二空にて飛行機を持って行きたいと願ったが、水偵では如何とも出来ないであろうとだめられる。又余分の機もない。対岸竹島に輸送空母から陸揚した、天山艦が見える。あれと願って見ただが水偵搭乗員が艦政操縦は無理だと叱られる。なぜ自分達は水偵搭乗者であったのか。と残念がった。全員病室で身体検査を受けた。

「とても飛べる様な体ではない。一日も早く体力の回復をはかって再び飛んでくれ」といわれて。一同涙して東方マールシャルの空を見る……。万感胸を圧す。

◎ブラウン島の玉砕

二月初十七・十八日
両日大空襲に会う。同じ頃ブラウン島は玉砕したと知らされる。大本営発表はない。なぜ？ 複雑な気持。ブラウン島にあった多くの兵士。測量隊、設営隊、陸軍さん思った。

◎その後の私

柴田君と共に九〇二空に入り転戦中、カロン群島中の一孤島の派遣隊にて負傷、両耳完全ツンボとなり内地に帰りました。不具(ツンボ)のまま館山航空隊につけました。その間一隻も危害を加える機会はありませんでした。終戦前の五月末、六三一航空隊に転動しました。水上攻撃機晴嵐搭乗員となり、昨日までの潜水艦殺しがこんどは、私自身、潜水艦に搭載する水上攻撃機だったので。今度はカラスから竜になったのだ。アメリカ本土、ニューヨーク攻撃も夢ではない配置になり、「今度こそ仇が取れる」と張切って居りましたが、その訓練中に終戦となり、その意を果すことが出来ませんでした。

筆者・元海軍上等飛行兵曹・現住岡山県浅口市郡里庄町大字新庄二八六〇電話〇八五五七八・二〇六九番

事務局だより

〇会員章(バッジ)について

会員章のことは前号のこの欄でお知らせしたとおり一月に出来上り、2月6日靖国神社慰霊祭のときお頒ちしました。

四十九年の会費を納めて下さった方に一個贈呈することとし、2月6日靖国神社においでになった方にはそのときお渡ししました。当日おいでになった方はご了承下さつてのとおり、靖国神社での受付は本部役員と地方会員中有志の方々のご奉仕によって行われておりますが慣れないのと、短い時間の処理のため49年度の会費を納めながら会員章未受領の方があるのではないかと案ぜられます。このような方はおしらせ下さい。お送りいたします。

2月6日参拝においでにならない方には今回この封筒に入れお届けしますのでご査下さい。結局戦死者一柱につき会員章一個となりますが、それ以上ご希望の方には一個三〇〇円(送料別)でお頒ちしますので御申込下さい。昨年厚生省政府派遣団員と同行した民間協力者が大変員に入られお申込み下さいました。5月11日の千鳥ヶ淵の拜礼式に佩用して来て下さったのには心から嬉しく思いました。

〇靖国神社みたま祭と大型献灯
毎年お盆の靖国神社みたま祭りに奉納している大型、献灯は今年も7月13日から16日まで「マールシャル方面遺族会」と大書し期間中

毎晩「みあかし」を捧げます。このとき各界著名の方々のご揮毫になる数百名のかけばんぼりが奉納されますが、その中から十点をえらび絵葉書にして頒布されています。本年はその第十輯が出されます。私はそれが誠に美事で楽しいので、毎年お参りのときもとめて、時折出して楽しんでおります。ご希望の方には私参りましたときうけてお送りいたしますので、ご遠慮なくお申付け下さい。(10枚一組三〇〇円送料55円)

編集あとがき (浮田)

六月のある日曜の午後井上常任幹事ご夫妻が事務局に見えゆつくり話かじりました。そして事環礁に触れた。林幸市様を選んで下さったこの誌名は本会の使命にうつてつけどが、誌名負けして内容が伴はない。当初は会員の事務連絡という軽いもので、会則にもせない程のものである。今では厚生省や各都道府県にお届けの意味をもつようになり少しお粗末すぎるとも。それもあって、本号からは井上さんの意見により、各頁の上欄外に年月日と号数を刷込むこととした。どうか環礁を立派に育てるためお気付の点を教えて下さい。

本 部

郵便番号一五四
東京都世田谷区野沢
三丁目十一番三号
マールシャル方面遺族会
電話(東京)三三三三番